

ふ寺院有て、薬師如來、觀世音を安置し、在五中將の像、八橋の橋杭など寶物と聞ゆを見なし立戻りて行、

〔遊囊贖記^六〕八橋ハ杜若ト共ニ早ク跡ナクナリケレドモ、好事ノ人ノ昔ヲシノブ便ニ、杜若ヲ在原寺ニ引植テ、世々ニ傳ルコソ殊勝ナレ、

〔和漢名數^理〕東路大橋 矢矧^{參州}

〔東遊記^二〕九十九橋

橋の長きものは、世人のよく知る所の、東海道の岡崎の矢矧の橋なり、其長貳百八間ありと云、是を天下第一とす、

〔名所方角抄^{三河}〕矢矧里 河有、八橋より五里なり、此川に橋あり、

〔國花萬葉記^八參河〕矢矧の里 岡崎の西の出はなれに矢はぎの川橋有、此橋を西へ越て矢作の里也、

〔遊囊贖記^六〕矢作橋長サ四十八間、海道第一ノ長橋ナリ、大平橋長サ四十三間、此川ハ即男川ナリ、大平村ニ因テナベテハ大平川トイフ、海道宿次百首、爲相卿ノ大矢川トヨミ玉フモ此川ノコトナリト云フ、末ハ矢作川ニ作合シテ海ニ入、

〔平家物語^六〕墨股合戰の事

同じき十日、^{養和元年三月}の日、美濃の國の目代早馬を以て都へ申しけるは、源氏既に尾張國まで攻め上り、道をふさいで人を一向通さぬよし申したりければ、平家やがて討手をさし向けらる、^{中略}十郎藏人行家は引き退き、三河の國に打ち越えて、矢矧川の橋を引き、搔楯かいて待ちかけた、平家やがて、續いて攻め給へば、そこをも遂に攻め落されぬ、^略

〔太平記^{十四}〕矢矧驚坂手越河原鬪ノ事